



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

# 佐土原ロータリークラブ週報

1995・96年度国際ロータリー・テーマ 国際ロータリー会長 ハーバート・グラハム・ブラウン



Act with Integrity  
Serve with Love  
Work for peace

## 〈本日のプログラム〉

第 380 回 平成 7 年 9 月 22 日(金)

1. 点 鐘
2. ロータリーソング  
「 我等の生業 」
3. 食 事
4. 会 長 の 時 間
5. 幹 事 報 告
6. 各 委 員 会 報 告
7. 会 員 卓 話 佐野 保君
8. 点 鐘

会 長 藤 堂 孝 一  
副 会 長 齋 藤 芳 夫  
幹 事 福 井 輝 文  
会 計 中 武 靖 雄  
会 報 委 員 長 垂 水 敏 雄

### 佐土原ロータリークラブ

例会日 毎週金曜日(12:30~13:30)

例会場 ホテル神宮寺 ☎0985-73-0015

事務所 ☎880-02佐土原町大字下田島7912

(株)福井工務店内☎0985-73-0291

第379回例会記録  
(1995. 9. 8)

☆会長の時間

藤堂孝一君

皆さん今晩は、本日は第379回例会で、恒例の観月会が引き続き開催されます。会場の予約から出会者の最終確認まで、大変お世話になりました郡司親睦委員長をはじめ委員の皆様、厚くお礼を申し上げます。

また、多数のご夫人様・お子様にご参加をいただきまして、誠に有り難うございました。

今夜は十四夜ですが、あいにく全国的に曇りで、残念ながら名月は見れないようです。しかし、昔から「花より団子、月よりお酒」と言われますように、シーサイド・ホテルフェニックスの心をこめた月見料理を賞味し、一段と艶やかな奥様方を眺めながら、杯を酌み交し、親睦をさらに深めていただきたいと思います。どうぞ楽しい一夜をお過ごしください。



☆幹事報告

福井輝文君

例会変更通知

- \*宮崎西RC 9月15日は休会
- ” 9月29日18:00  
ホテル・フェニックス
- \*宮崎南RC 9月25日18:30  
ホテル・プラザ宮崎
- \*日向中央RC 9月20日18:30  
はまぐり荘

- \*日向RC 9月25日19:00  
すし源
- \*日向東RC 9月26日12:30  
旭コード(日向市朝日1丁目)

☆出席報告

委員長 恒吉正志君

会員数	30名
HC出席者数	28名
欠席者数	2名
出席率	93.3%
欠席者名	森田・徳丸

観月会

曇天のため、会場は「旭の間ホール」になりましたが、佐土原ロータリークラブをはじめ、職場・婦人・家族各グループに浴衣姿の宿泊観光客も混じって、満席の盛況でした。

我がクラブのメンバーも、それぞれ和やかに談笑しながら会場の雰囲気盛り上げていました。頃合を見て、地元の愛好会の方々によるひょうとご騒がけが始まり、座席の間を回りましたが、女性には特別サービスがあるらしく、各所で嬌声が起きました。

次のお楽しみビンゴゲームでは、次の4名の方がめでたく当選されました。

伊東会員ご夫人・梶田会員・吉田会員・加藤会員

とら  
良き仲間と 良き妻ありて  
さ 月見酒うまし

伊東忠寛君

昨年9月17日(土)16時45分、佐土原町黒田の国道219号線三叉路付近で、義弟(末妹の夫)が交通事故に遭いました。何時ものように、妹と塩路のフェニックスゴルフガーデンに行って練習をし、宮崎市の自宅に帰る途中のことでした。

交差点の手前30mほどに近付いたとき、信号がまだ青であったので、今なら間に合うと判断し、国道219号線に進入したのですが、その瞬間、宮崎方面から走行してくる1台の赤い乗用車が目には入ったそうです。

しまった!と思った時にはすでに遅く、正面衝突の状態になったのでした。妹はシートベルトを着用していなかったため、フロントガラスに頭を突っ込み意識が朦朧となり、左手骨折、右膝挫創の傷を負い、義弟は首から下に激痛が走り、しびれて全身体が動けなくなりました。

相手は20歳の女性でしたが、軽傷で済んだとのことでした。

これは、交差点での自動車事故の典型的な例であろうと思います。特に、若い女性は、一時停止をしたと言っても、実際はしていないで、そろそろと出て来ます。また、交差点での安全確認の仕方が分からないようです。

自動車は道路の左側を通過して来るのですから、先ず右を見る。次に左を見て、もう一度右を見る。これが大原則です。

妹は県立宮崎病院の整形外科へ、義弟は同病院の集中治療室へ救急車で運ばれ

ました。義弟は頸椎脱臼と分かり、そのため神経が麻痺して首から下が動かなくなっている、との説明がありました。

麻痺が24時間以内に快復すれば手術をしようということになりました。

私が機動隊勤務の時に、柔道部の選手を引率して全国大会に参加したことがありましたが、その時、重量級の試合で頸椎脱臼をした部下がいました。その時の症状と全く同じです。幸いその部下は、48時間経過した頃に神経の麻痺が快復し、一週間後に手術をし、今では再び柔道で活躍しています。

そのような事例を医師に話して、何とか手術をしていただくようお願いもしました。

幸い義弟は意識はしっかりしていて、話もできました。本人がその夜言ったことは、『自分は幼時から、**注意一秒、怪我一生**ということをよく聞かされ、自分でもそれを口にして来た。しかし、本当に自分の身に降りかかってみなければ分からないものである。ああ、あのときもう少し注意しておれば……』でした。

非常に残念がっていました。

頸椎脱臼部分の復元治療を続けるうち、午前2時半頃、カクッという音とともに「良かった!」という医師の声が聞こえました。脱臼した箇所が嵌まったのだそうです。これで手術ができるかも知れない、と私は安堵しました。

ところが、最初は両手にいくらか感覚があったのですが、日が経つにつれ次第に麻痺が全身に広がって行ったのです。  
(続く)



**現** 在、23,000以上のロータリー・クラブが世界で和気あいあいと会合しています。各クラブは基本的にはその構成、活動、目的を同じくしますが、クラブ区域内でロータリーのプログラムを効果的に実行するため、その手段方法は各クラブごとに独自に工夫されています。多少の例外はありますがほとんどのクラブが地区に組み入れられ、そして、各地区は地区ガバナーの直接の監督下にあります。

複数のクラブをもつ大都市を除いて、ロータリーは一つの地域社会に一つのクラブを、原則として結成しています。各クラブの正会員には、原則としてクラブ区域内にある各職業（実業あるいは専門職業）の代表的人物が1人ずつ選ばれています。これは、実際には独占的、排他的なものではなく、これによってクラブの会員構成が地域社会の実業および専門職業を正しく組み入れたものとなります。この規定は、権威と影響力をもつ人物が社会に奉仕し、立派な業績を上げるのにふさわしい地位にあるということをよりどころにしたものです。一定の制限はありますが、近隣の地域社会からも会員を選ぶことができます。

ロータリーで「職業分類の原則」として知られているこの規定は、いろいろ異なった関心をもつ者が集まって、奉仕のための親睦を深めていくのに役立っています（例えば、弁護士がエンジニアと、銀行家が印刷業者と、そして酒造家が自動車ディーラーと交流をもつのです）。また、この規定は、クラブの会員構成がいずれか一方に偏ることを防ぎ、同業者が同席している場合と比べて雰囲気を開放的なものにするのに役立っています。

ロータリー・クラブは、個人的な友情と奉仕のきずなで結ばれた人々による真のクラブとなることを目指しています。このため、毎週のクラブ例会にきちんと出席することが、クラブ会員として大切な務めとなっています。また、ロータリアンは会員であることの特典を、営利目的に利用しないよう求められています。この点についてクラブの名誉は、クラブ会員全体によって怠りなく守られています。

各ロータリー・クラブは、国際ロータリーの加盟認証状を受けた世界組織のメンバーです（加盟認証状はRI会長、同事務総長および地区ガバナーが署名し、クラブがRIに加盟したときに中央事務局から発行されます）。したがって、各クラブはその地域社会のみではなく、全世界のロータリーと結び付いているのです。ですから地元の社会にのみ目を向けているクラブは真のロータリー・クラブとしての責任を、部分的にしか果たしていないこととなります。

これと同じことが、個々のロータリアンについてもいえます。ロータリー家族の一員として、ロータリアンは、世界のいずれのクラブをも自由に訪れる権利と、それに伴い、あらゆる人種、あらゆる国のロータリアンと友好を広める特典もっています。例えば、ケニアのモンバサのロータリアン医師が何の前ぶれもなくノルウェーのモッドム・クラブを訪ねることができるし、また、日本の茨城県の取手クラブの会員がイタリアのトリノ・クラブを訪ねても一向に差し支えありません。創始者ポール・ハリスがいったように「ロータリアンはお互いの意見を尊重し、常に寛大で友好的である。カトリック、プロテスタント、回教、ユダヤ教、あるいは仏教徒がロータリーではいっしょにパンを分かち合って食べている」のです。

ロータリーは、私利私欲のみを迫及する実業人の団体でないのと同時に、国家主義者の集まりでもありません。すべてのロータリー・クラブは、その窓と扉を広く全世界に向けて開けておかねばならないのです。161カ国の大小地域社会の一般実業人そして専門職業人は、ロータリアンになることによって、国際理解と友好を深め合う豊かな機会を与えられています。事実、ロータリー以外では決して得られなかったと思われる機会に恵まれたことに感謝している人々が多数います。地元や外国の地域社会の人々とともに活動し、文化的交流を行い、あるいは指導力を発揮し、あるいは旅行し、豊かな友情をはぐくむ機会が無限に与えられています。中でも最も意義があるのは、奉仕の機会が全世界的なものとなるということです。

